

—確認調査結果報告会 の質問内容（要旨）と原山教授の回答— 2008/3/17

牧 武司

今回の質問は、原山教授と討論（議論）を戦わせるのが目的ではなく、原山教授が調査結果を会場にて説明しても、初めて聴く村民が到底すぐに理解できるものではないと思い、私が質問することにより聴いている村民の理解を正確なものにすることを主眼として行ないました。

以下その内容（要旨）をまとめました。原山教授の回答（応答）部分を朱書きしました。

原山先生に今ご説明して頂いたことを確認するために質問させていただきます。

1. 活断層は確認出来たのですね。———第4期後半に動いた証拠、数千年以内のものだということが再確認できました。

活断層の場所（位置）は、今まで想定していた活断層の位置より西側へ（候補地の方向へ）

16m接近したところですね。———そうです。今までは航空写真のみでの確認でしたから1/25,000の地図上では16mはその範囲内ですが、姫川左岸であることは確実にになりました。

2. その活断層の位置から、さらに西側へ（候補地側へ）1m離れた場所を1箇所のみボーリング調査、すなわち地表から穴を開けて15m深さまで掘り進めたのですね。

そのボーリングの収集サンプルを確認したら堆積層の地質であった。このことのみで、この活断層は垂直若しくは東に傾斜であると判定されたのですね。

そして副断層らしき地質にも当たらなかったもので西側に伸びている副断層もないと結論されたのですね。———そうです。

私はこの副断層ということ初めて原山教授からお聞きしまして、何のことか良くわからないので、私なりの理解をお話します。たとえば人間の身体を想定しますと、活断層は主動脈血管であり、副断層とはそこから出ている毛細血管（些細な血管）のことで、言い方を変えれば体毛のようなものなのですね。———その通りです。

ということは活断層が重要なことですね。———そうです。

3. 私はこの原山先生の調査内容に関して、広島大学院の教授に、相談に行きました。

この教授は白馬村の堀の内で大規模な地質調査をされた方です。———奥村さんですか。

そうです奥村教授です。

奥村教授はこの活断層は良く知られておる神城断層と呼ばれているものであり、逆断層である。東側に傾斜している逆断層である。

逆断層とは、地震が起こると東側は断層に沿って持ち上がり、西側は逆に陥没する。

すくなくとも候補地のところは地震発生とともに2~3m以上は陥没するところであり、場所的に平川、姫川からの河川水による危険が最も高いところだと断言されました。

そうですね。———そうです、東側の隆起と併せると3~5mの地表の差が出ます。

ずれる量も問題にすれば、地震が起こらなくても一般的には1千年当たり2~3m陥没するでしょう。

4. ボーリング調査時に地下から水が自噴してきたと調査報告書に書かれています。

候補地のところは平川、姫川の伏流水が流れているところで、非常に地質としては

危険度の高い場所ですね。———そうです。伏流水からみると白馬の扇状地は、伏流水の多い場所だと思います。地盤の強さを調査し、設計強化の必要があります。

以上